

## 令和5年度第2回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：若い力で離島を元気に！
- 2 日時：令和5年10月10日（火） 13:40～14:50
- 3 場所：菜食茶店 KUa(笠岡市白石島 572)
- 4 参加者：離島地域において子どもの存在を生かした地域づくりに携わる方など5名

### 5 知事挨拶

- ・離島地域において子どもの存在を生かした地域づくりに携わる皆様から、地域の魅力や可能性、多様な主体が地域を支え合うために必要な取組、地域を元気にするアイデアなどについてお聞きしたい。

### 6 発言内容等

#### 【自己紹介】

- ・2018年に「教育による持続可能な離島振興」をテーマに地域おこし協力隊として飛島（ひしま）に移住した。自治活動にも積極的に参加し、島民との信頼関係を築き上げた上で、2021年から不登校の子どもを対象にフリースクールを始めた。2021年秋からは離島留学を開始し、現在は中学生が6名いる。
- ・白石島づくり委員会で地域活動を行っている。島づくり委員会では国際交流ヴィラの管理を行ったり、昨年からは旧幼稚園を活用して託児施設を開いている。近年の高齢化により高齢者の移動サービスにも力を入れている。
- ・六島（むしま）まちづくり協議会の会長を務めている。六島には24年前に結婚を契機に移住し、子育てが一段落したのでまちづくり協議会に参加するようになった。島の活性化のために子ども達がユースバー活動をしているが、子ども達も減っているため、外の力を借りて動画編集に協力してもらいながら、動画作成している。人口が減っているため、関係人口を増やす取組を行っている。
- ・岡山学院大学食物栄養学科で教員をしている。今年度から地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業に採択され、六島まちづくり協議会の皆さんと関わっている。関係人口を増やすため、食をコンテンツとして、六島の特産品を使った島御膳の開発やカフェの運営に取り組んでいる。六島の魅力を発信していきたいと考えている。
- ・今年度から笠岡市立北木小学校の校長と北木西幼稚園の園長を務めている。少人数の学校のため個に応じたきめ細やかな指導ができることが最大のメリットであるが、協働的な学びが課題であるためオンラインでの交流で補いたいと考えている。

#### 【活動を通じて発見した地域の可能性や課題】

- ・離島は都会と比べると不自由な部分もあるが、都会でなんでもある暮らしの中で孤立してしまっている子ども達は、離島地域に来ると地域交流が暮らしの中で当たり前にある環境に身を置き、みんなで支え合って暮らしていく中でエネルギーを補給しているようだ。また、フリースクールの中では衣食住のすべてを子ども達で行うが、日々の暮らしの中でいい意味で子どもに負荷をかけることで、自ら考えて行動し、自然と元気になっていくほか、島民の皆さんとの何気ない交流も

子どもの居場所となっている。

- ・昨年 11 月に白石踊がユネスコに登録されたことで、笠岡市内外の小中学生が白石踊に興味を持って校外学習で訪れており、外の若者の力で島が元気をもらう状況が生まれつつある。卒業論文の作成に当たり、白石踊を調べる大学生がいたが、そうした方への対応も刺激になっている。課題としては、講話などの依頼があっても人口が減って対応しきれないことが挙げられ、今後は、白石踊の指導者などのシステムづくりを行っていく必要があると考えている。
- ・六島には仕事がないため、まちづくり協議会で 4～5 年前から仕事づくりを兼ねてレモン栽培を始め、レモンの収益化や商品開発ができないかと考えている。また、現在小学校 4 年生の児童が中学校を卒業したら子どもがいなくなり、その時にはさらに高齢化が進んでいるため、そこから先、島のシンボルである灯台と水仙の管理をどのようにしていくかというのが六島の最大の課題である。そこで、関係人口の取組として、県内の大学生や六島ファンのボランティアに草刈体験をしてもらったりしている。他にも、小学校がなくなると船便が減る可能性があるため、船便の維持のために船をもっと使ってもらえるように六島を周知していく取組が大事であると考えている。
- ・六島で大学生が様々な取組を行っているが、色々と不便な中でも携帯電話の電波が届かないというのは大学生にとっては死活問題である。関係人口や移住者として受け入れる際にも電波状況の改善ができるとよいと思う。他にも問題の一つとして、イノシシ被害がある。島の方に聞くと昔の六島はもっときれいだったが、イノシシが水仙の球根を掘り返すため、胸を張って見せられない部分があると言われていて残念であった。制度として離島と陸地で鳥獣害対策を変えることで、今までの綺麗な六島を持続できるのではないかと考えている。
- ・北木島では、個に応じたきめ細やかな指導ができる反面、協働的な関わりは難しいという点について、可能な限り他校とのオンライン共同授業や実際に触れあう交流をさせてあげたいと考えている。また、来年度の教育課程を考える中で、六島小学校と一緒に春の遠足や 6 年生を送る会を検討しており、少人数の学校同士の交流も計画している。子どもの中には対面での子ども達同士の触れ合いを求めている子もいるが、予算の関係で自由にいかないところもある。

### 【地域に必要な取組、島の魅力】

- ・離島は閉ざされていて外の便利なものが入りづらいため、地域の中でまとまらないといけないという構図があるが、この「地域」というものが財産だと感じている。家族にとっても子どもにとっても「地域の中で育つ」ということは非常に大事だと実感しているが、そのための土壌が島には元々ある。今後、学校の在り方や新しい居場所づくりが問われていく中で、地域の特性を生かした取組が求められるため、単発ではない仕組みづくりができると良いと思う。
- ・都会だと地域の方が学校の運動会や学芸会に来てくれることは少ないが、島だとほぼ皆さんが来てくれる。島のおじいちゃんおばあちゃんに可愛がってもらって子ども達が育っていくのは島の魅力だと感じる。
- ・島の民生委員の方と挨拶したときに、「子どもは島の宝だ。何かあったら何でも言ってくれ。」と言ってもらい、子ども達が大事にされていると実感した。
- ・六島の大石山と白石島の立石山が日本の「しま山 100 選」に選ばれており、全国

のしま山をまわる方やコロナ禍で外国の山に行けない方たちがトレッキングをするために来られている。コロナ禍により島の魅力が再発見されたが、若者がいないためガイドの育成に課題を感じている。

- ・六島の診療所に六島ノートという来訪者が自由に書き込めるノートを設置しており、書き込みに対して子どもたちが返事を書いている。せっかく子どもが頑張っているのもう少し周知が必要だと感じている。

#### **【知事まとめ】**

- ・今日は島の外からご縁があって来られた方にもご参加いただいているが、皆様のご活躍のお話をお伺いして、島の今後に期待ができると感じた。また、昔に比べて便利になっている部分もあることや、不便さをいかにうまく活用するかも大事なことだと勉強になった。島の活性化のために全ての不便さを取り払うべきだとは思っておらず、その線引きは重要であると思う。様々なことを試す中で良い関わりを持ち、可能な限り地元の方や来られる方を幸せにできると思われることにご尽力いただきたい。